

保険料収入増加するも納付金負担が依然重く

今年度も赤字予算

※()内は1人あたり額。

予算総額 **46億35百万円**

収支差引額
▲1億97百万円
(▲24,937円)

積立金より繰り入れ **3億97百万円**

その他の収入 **91百万円** (11,592円)
国からの交付金等

その他経常収入 **11百万円** (1,386円)
施設利用料等

保険料率
8.8%

保険料収入 **41億36百万円** (524,407円)
みなさんの毎月の給料や賞与から納めていただく、
健保組合の主たる財源

| 予算基礎数値 | | 対前年度予算 |
|----------|----------|------------|
| 被保険者数 | 7,887人 | +93人 |
| 平均標準報酬月額 | 384,625円 | +4,290円 |
| 保険料率 | 事業主 | 52.25/1000 |
| | 被保険者 | 35.75/1000 |
| | 合計 | 88.00/1000 |

収入

予備費 **2億円**
不意の支出に備えるための費用

その他の支出 **68百万円** (8,623円)
財政調整事業拠出金等

事務費・その他経常支出 **26百万円** (3,278円)
健保組合の事務費用、連合会費など

保健事業費 **1億18百万円** (14,968円)
がん検診・歯科健診・人間ドックの補助など、みなさんの健康に役立てていただくための事業

保険料収入の
2.9%に相当

国への納付金 **21億73百万円** (275,547円)
高齢者医療を支えるための財源として健康保険組合が
国へ負担する費用

保険料収入の
52.5%に相当

保険給付額 **20億50百万円** (259,906円)
みなさんが受けた医療や出産、死亡、休業に対する給付
費用

保険料収入の
49.6%に相当

支出

令和2年度予算 ● 介護保険

予算基礎数値

| | | |
|--------------------------|----------|------------|
| 徴収対象 40歳以上(第2号被保険者)人数 | 4,200人 | |
| 平均標準報酬月額 | 428,298円 | |
| 保険料率 | 事業主 | 8.75/1000 |
| | 被保険者 | 8.75/1000 |
| | 合計 | 17.50/1000 |

介護保険料率を前年度より2.5/1000(労使折半)引き上げました。

収入

| | |
|--------|-----------|
| 介護保険収入 | 4億9,400万円 |
| 合計 | 4億9,400万円 |

支出

| | |
|--------|-----------|
| 介護納付金 | 4億9,120万円 |
| その他の支出 | 550万円 |
| 合計 | 4億9,670万円 |

| | |
|-----------|-------|
| 準備金より繰り入れ | 270万円 |
|-----------|-------|

予算のポイント

保険料率は前年度と同じ**8.8%**

みなさんと会社からいただく保険料収入は、保険料率を前年度と同率とし、前年度比1.8%増の41億36百万円を見込みました。

保険給付費は前年度比**微増**

みなさんへの保険給付費は、被保険者数の増加を見込み、前年度比1.0%増の20億49百万円を見込みました。

納付金は前年度比**19百万円増加**

国への納付金は75歳以上の医療費を支える後期高齢者支援金の負担が依然重く、全体で前年度比0.9%増の21億73百万円を見込みました。

今年度も経常赤字!!

前年度に引き続き収支の不足分は積立金の繰り入れで賄いますが、2022年以降は団塊の世代が後期高齢者へ移行することから、国への納付金の後期高齢者支援金がさらに増加し、保険料負担の上昇が危惧されます。健保連では、目前に迫る「2022年危機」に対し、本年の「骨太方針2020」に後期高齢者の原則2割負担を軸とした高齢者医療費の負担構造改革を盛り込むよう訴えを強めています。

一方、少子高齢化により社会保障の支え手が減少するなか、健保組合には、健康寿命の延伸と医療費の増加抑制を担う役割が層求められています。